

埼玉県大里郡寄居町でタケウチトゲアワフキの生息記録

石井克彦（川の博物館）

はじめに

埼玉県大里郡寄居町藤田にある正龍寺敷地内（図1）のシナノキ科樹木にて、埼玉県内において「準絶滅危惧NT2」に選定されているタケウチトゲアワフキ *Machaerota takeuchii* Kato, 1931 の特徴的な幼虫の巣（写真1・2）を確認（2015年9月4日）した。

しかし、再確認のため同寺を訪れたところ、幼虫の巣がついていた樹木が切り倒されていた（2016年2月16日）（写真3・4）。今回樹木の消失は残念なことだが、埼玉県では記録の少ない本種の生息の情報として報告する。

タケウチトゲアワフキはカメムシ目トゲアワフキ科に属する昆虫で、幼虫が石灰質の特徴的な巣をつくる。また、成虫も形態的に顕著な特徴的なフォルムをしている。埼玉県が発行するレッドデータブック（埼玉県2008）に準絶滅危惧とされている。

観察時の様子

発見時、樹高7mほどのシナノキ科樹木の枝に幼虫の巣がついていることを確認。さらに同一樹木を確認したところ地面から120～180cmの高さの横枝に6個の巣を追加確認し



写真1 タケウチトゲアワフキ 幼虫巣



写真2 タケウチトゲアワフキ 幼虫巣

た。類似の巣をつくるものはないのでタケウチトゲアワフキと考えてよいと思われるが、より確かな記録とするために成虫の時期にあためて確認する必要があると考えていた。

考察

埼玉県で本種の自然分布と考えられるものは秩父市大滝、秩父市久那の記録がある。さいたま市見沼区の記録はシナノキの植栽による移植随伴と考えられている。「寄せ蛾記146号2012」。

本報文で記録した寄居町とその周辺ではシナノキ科の樹木はほとんど見られず、今回の発見も寺の境内に植栽されたと思われる樹木であることから、この記録が自然分布によるものなのかは疑わしいと思われる。

謝辞

アドバイスと発表を進めて下さった碓井徹氏に感謝する。

確認地：埼玉県大里郡寄居町藤田

(MC: 5439-1144W)



写真3 切り倒されたシナノキ科樹木



写真4 正龍寺全景

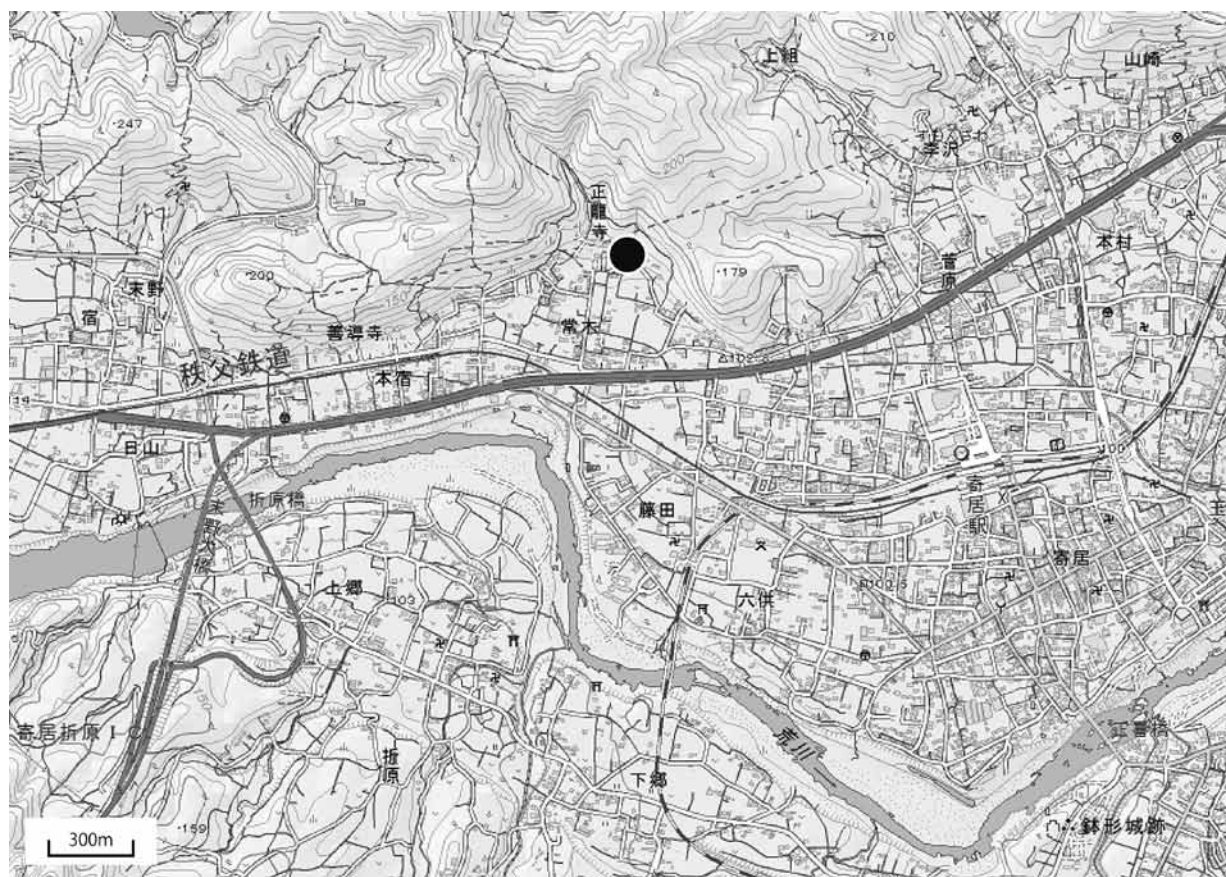


図1 正龍寺位置図